

2017年10月24日

大阪産業大学附属中学校

2016年度 学校関係者評価

大阪産業大学附属中学校
学校関係者評価委員会

10月24日に学校関係者評価委員会（8名中4名の委員が出席）を開き、会議冒頭にホームページに掲載している体育祭・文化祭の動画を視聴し、その後、学校が公表する学校評価に基づいて大阪産業大学附属中学校の教育について議論しました。その概要を報告します。

1. 2016年度 学校評価について

学校から学校評価、授業アンケートを通じての説明があり、小規模校ならではの長所、短所の特徴を深く理解することができました。その後、中学生特有の教育問題、生徒たちが今後迎える予測不能な社会を乗り越えていくための教育のあり方などについて、議論は活発におこなわれました。また、体育祭・文化祭の動画を視聴して、生徒たちが生き活きと活動する姿に委員会のメンバーからも賛辞の声があがっていました。

2. 学校教育への提言

A. 同窓生代表から

中学生は精神的に未熟で、倫理観も未完成な状態なので、無自覚にクラスメートを傷つける言葉を発したり、衝動的な行動に訴えたりということが起こりやすいので、教員は日頃からちょっとしたクラス生徒の変化にまで目配り、気配りしていただきたいとの意見が出されました。特にいじめによる中学生の不登校や自殺という記事もよく目にするので、問題が深刻化する前に教員は指導を徹底していただきたいとの要望がありました。

B. 近隣住民の方から

学校の近隣には、高齢者の方も多く住まわれているので、毎朝、生徒が元気に地域住民の方に挨拶の声をかけてくれるのは、地域に活気が出るのでありがたいという意見が出ました。

C. 大阪産業大学の教員から

これからの社会は、これまでのような詰め込み型の知識偏重から、理解している知識をどのように活用できるかという思考力・判断力が必要とされることが予想され、現在、小中高の教育現場でもそうした社会に対応するために、主体的で深い学びへの取り組みが行われていると聞くが、具体的に学校ではどのような取り組みがなされているのかと質問がありました。質問に対して、学校で行われているアクティブラーニングの実践例が紹介されました。